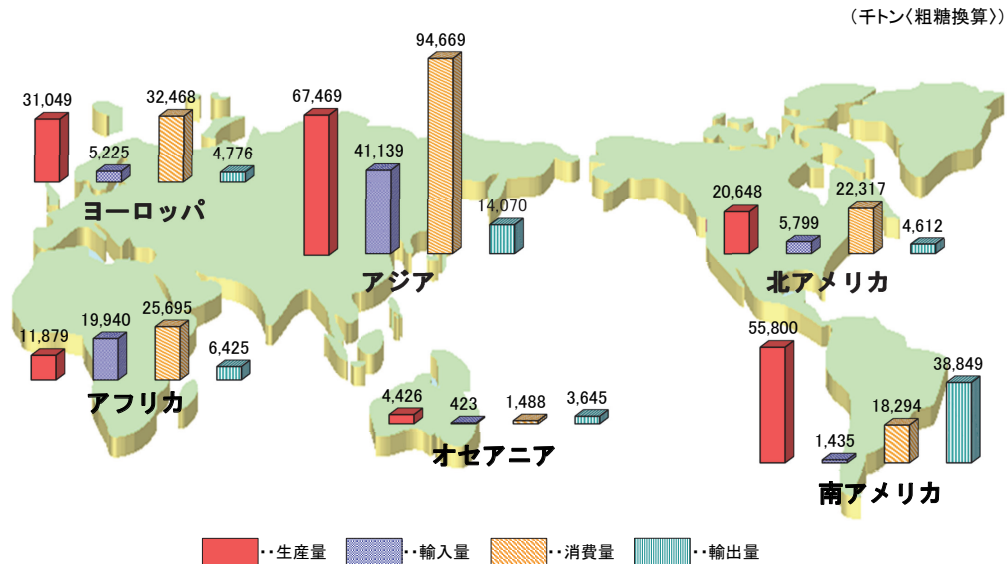


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之

1 世界の砂糖需給（2023年12月時点予測）

図 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	80,661	186,618	61,420	182,759	61,495	84,445	46.2
2019/20	84,445	181,594	69,256	182,067	71,643	81,585	44.8
2020/21	81,585	181,623	66,782	184,148	68,189	77,652	42.2
2021/22	77,652	186,251	69,322	186,138	71,729	75,359	40.5
2022/23	75,359	191,441	69,683	189,799	71,049	75,634	39.8
2023/24 (2023年12月予測)	75,634	191,271	73,961	194,931	72,376	73,559	37.7

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2024年4月号の掲載となります。直近の内容は2024年1月号をご参照ください。

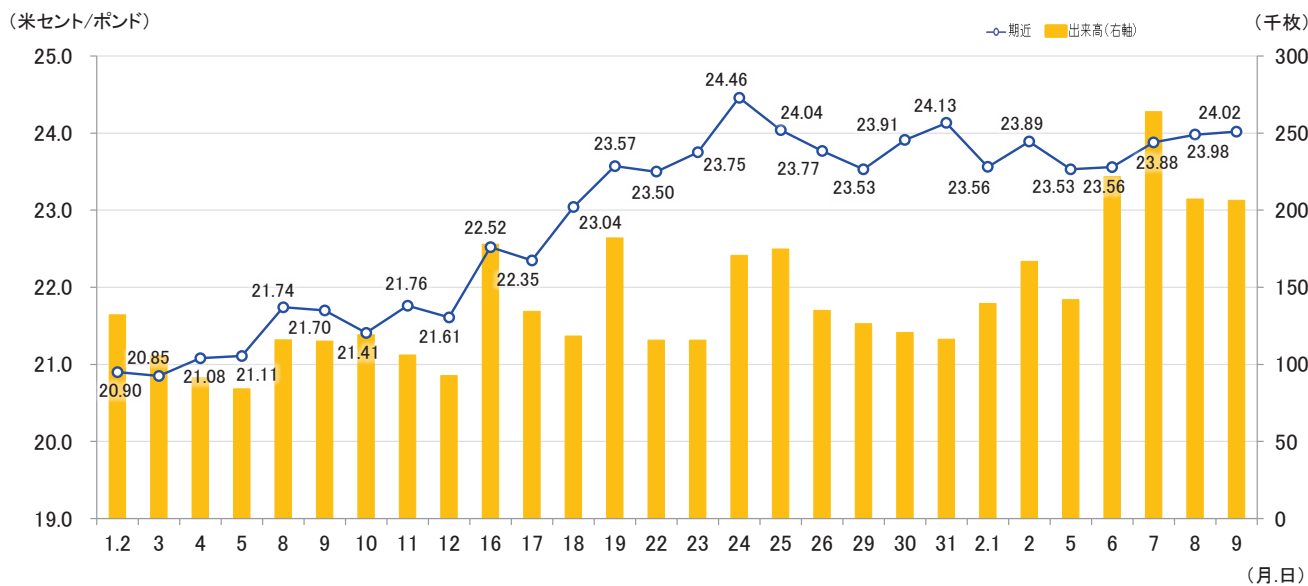
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003064.html

「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003065.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（1/2～2/9）
～インドやタイの減産見込みから、24セント台まで上昇～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近3月限の値。

2024年1月のニューヨーク粗糖先物相場（3月限）の推移を見ると、2日以降は、インドの全国協同組合砂糖工場連盟による同国の砂糖減産の発表や原油高（注1）を受けて緩やかに上昇し、8日には、1ポンド当たり21.74（注2）セントと値を上げた。9日以降は、ドル高（注3）や原油安により値を下げたが、11日はレアル高により、同21.76セントと上昇した。12日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が砂糖の増産を発表したことから値を下げたものの、16日は、インド気象庁がモンスーン期の降雨量を過去5年間で最少（平年値の6%減）と発表したことから、エルニーニョ現象による砂糖供給量の減少懸念が高まり、同22.52セントと急騰した。17日は、レアル安により一時下落したものの、18日以降は、インド政府が製糖副産物である糖みつのバイオ燃料原料利用拡大に向けて輸出用の糖みつへの輸

出税（50%）を課したことや、インド製糖協会による砂糖の減産予測から反転し、24日には、同24.46セントと高騰した。25日以降は、UNICAの砂糖増産の発表により、29日は、同23.53セントと下落したが、その後は、ドル安やインドの減産により、31日は、同24.13セントと上昇した。

2月に入ると、1日は、原油安が重荷となり、同23.56セントと値を下げたが、2日は、ブラジルの乾燥状態が新年度（2024/25年度）の砂糖生産量を抑えるとの予想から、同23.89セントと反発した。5日以降は、タイ製糖協会が同国の23/24年度の砂糖生産量の見通しを引き下げたことから、9日は、同24.02セントと上昇した。

(注1) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの割合が小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を

押し上げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2024年2月時点予測)

ブラジル

2023/24年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：846万ha (前年度比0.3%減)
生産量：7億1821万トン (同18.4%増)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：4950万トン (同24.6%増)
輸出量：3704万トン (同27.8%増)

2023/24年度の砂糖輸出量は、引き続き大幅に増加の見込み

GlobalData UK LTD. (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) の2024年2月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2023/24年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、846万ヘクタール (前年度比0.3%減) と前年度並みが見込まれている (表)。一方でサトウキビ生産量は、主産地の中南部地域が好天に恵まれたことや単収の増加などから、7億

1821万トン (同18.4%増) と大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの増産見込みや好天による順調な収穫作業などを背景に、4950万トン (同24.6%増) と大幅に増加し、過去最高水準に達すると見込まれている。輸出量は、引き続きエルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念や国際市場での需要の高まりが期待されることから、3704万トン (同27.8%増) と大幅な増加が見込まれている。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (1月予測)	2023/24 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,533	8,455	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	717,989	718,208	18.4%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	49,600	49,500	24.6%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,712	10,551	10,710	10,710	1.5%
	輸出量	34,042	27,093	28,985	36,863	37,044	27.8%
	期末在庫量	3,762	3,581	3,766	5,817	5,515	46.5%
	期末在庫率	8.4	9.5	9.5	12.2	11.5	2.0ポイント増

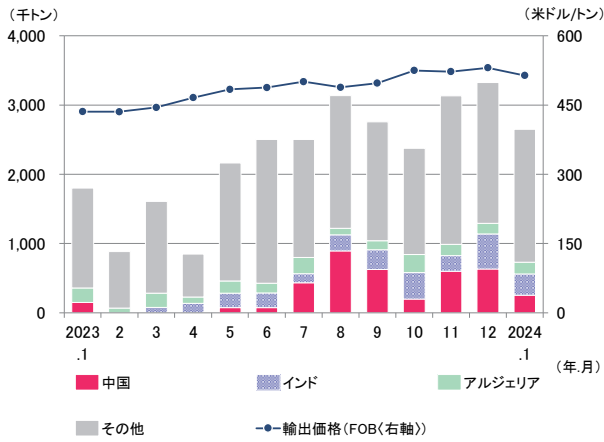
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

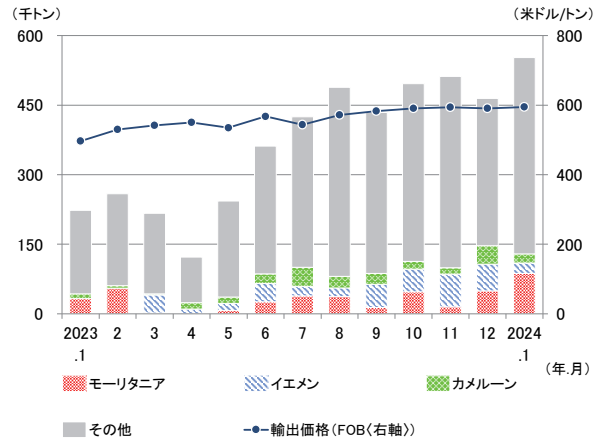
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：522万ha（前年度比4.1%減）

生産量：4億4028万トン（同3.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3406万トン（同3.7%減）

輸出量：372万トン（同56.9%減）

2023/24年度の砂糖輸出量は、減産と政府の輸出制限により大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、522万ヘクタール（前年度比4.1%減）とやや減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるウツタル・プラデーシュ州で前年を上回っているものの、同じく主産地であるマハラシュトラ州では降雨の遅れがサトウキビの成長に影響を及ぼしたことなどから、4億4028万トン（同3.4%減）とやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、同国政府が砂糖への仕向け量を優

先させるため、サトウキビ由来のエタノール生産を制限したことを受けて、前回予測からさらに上方修正されたが、マハラシュトラ州でのサトウキビの減産などにより、3406万トン（同3.7%減）とやや減少が見込まれている。なお、同国政府は上述の生産制限を補完するために、エタノール原料としての糖みつの国内利用の促進に向け、24年1月中旬に糖みつ輸出に対し50%の関税を導入した。輸出量は、砂糖の減産見込みに加え同国政府による輸出制限により、372万トン（同56.9%減）と、前年度の半分以下の水準となる大幅な減少が見込まれている。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

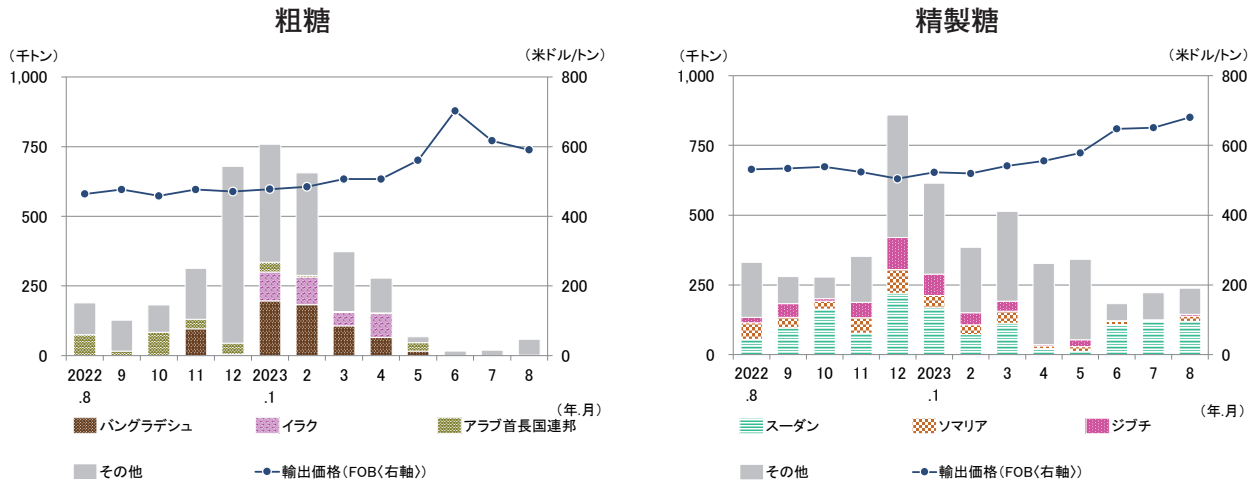
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (1月予測)	2023/24 (2月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,819	5,222	5,441	5,257	5,216	▲4.1%
サトウキビ生産量	415,221	481,599	455,898	437,168	440,283	▲3.4%
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,389	33,901	▲3.7%
	輸入量	1,037	428	1,687	3,233	91.6%
	消費量	28,679	29,516	30,078	31,428	3.1%
	輸出量	8,538	12,468	8,646	3,706	▲56.9%
	期末在庫量	7,971	4,973	3,325	4,622	77.5%
	期末在庫率	21.4	11.8	8.6	13.2	17.0

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

注3：2023年9月分よりデータの公表なし。

中国

2023/24年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha(前年度比5.3%増)

生産量：7063万トン(同12.8%増)

【てん菜】

収穫面積：18万ha(同1.1%減)

生産量：925万トン(同6.1%増)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：1062万トン(同9.5%増)

輸入量：743万トン(同26.3%増)

2023/24年度の砂糖生産量はかなりの程度、 輸入量は大幅に増加の見込み

2023/24年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール(前年度比5.3%増)

とやや増加が見込まれている(表)。サトウキビ生産量は、広西チワン族自治区で続いた乾燥による生育への影響が懸念されていたものの、23年8月から9月にかけて一定の降雨があったことで、7063

万トン（同12.8%増）とかなり大きな増加が見込まれている。なお、サトウキビの収穫は1月から2月にかけてピークを迎えるが、同自治区と雲南省では、1月の季節外れの降霜が生育の懸念材料となっている。一方で、てん菜の収穫面積は、新疆ウイグル自治区で寒さによる部分的な不作が生じたことなどから、18万ヘクタール（同1.1%減）とわずかな減少が見込まれている。てん菜生産量は、収穫面積が減少する中で単収が増加したことで、925万ト

ン（同6.1%増）とかなりの程度増加が見込まれている。

砂糖生産量は、原料作物の生産回復を背景に、1062万トン（同9.5%増）とかなりの程度増加し、21/22年度の水準にまで回復が見込まれている。輸入量は、需給ギャップを埋めるための一定の輸入量が予想されることから、743万トン（同26.3%増）と大幅な増加が見込まれている。

表 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

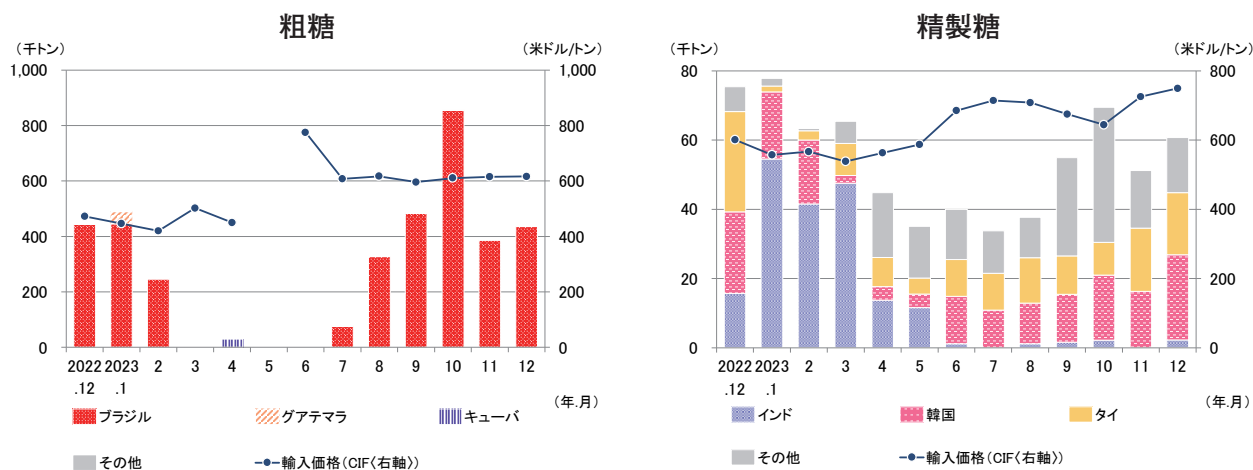
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (1月予測)	2023/24 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,157	1,119	1,102	1,160	1,160	5.3%	
サトウキビ生産量	72,441	72,136	62,592	70,731	70,631	12.8%	
てん菜収穫面積	231	144	182	180	180	▲ 1.1%	
てん菜生産量	12,330	7,070	8,719	8,689	9,247	6.1%	
砂糖	生産量	11,530	10,334	9,698	10,601	10,622	9.5%
	輸入量	8,186	6,969	5,879	7,506	7,428	26.3%
	消費量	16,740	16,632	16,578	16,956	16,956	2.3%
	輸出量	134	172	201	243	236	17.6%
	期末在庫量	16,089	16,587	15,386	16,186	16,244	5.6%
	期末在庫率	95.3	98.7	91.7	94.1	94.5	2.8ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

注3：2023年3月、6月の粗糖輸入量は、千トン未満のため表示なし。

注4：2023年5月の粗糖輸入は、実績なし。

4 日本の主要輸入先の動向（2024年2月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイである。2023年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が91.6%（前年比0.8ポイント増）、タイが8.4%（同0.9ポイント減）と、両国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比7.6%増）

生産量：2976万トン（同8.7%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：415万トン（同3.5%減）

輸出量：314万トン（同6.9%増）

2023/24年度の砂糖輸出量は、需要の高まりからかなりの程度増加の見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比7.6%増）とかなりの程度増加が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるクイーンズランド州北部で季節外れの降雨の影響により収穫が遅れたことで、2976万トン（同8.7%減）とかなりの程度減少が見込まれている。同州の生産者団体であるCANEGROWERSは24年2月、豪州サトウキビ生産者連盟とともに州政府に対し、23年12月に同州へ上陸したサイクロン「ジャスパー」により被災した同州北部のサトウキビ主産地であるモスマンへの支援を要請したことを公表した。

砂糖生産量は、サトウキビがかなりの程度の減産見込みとなる中で、エルニーニョ現象の影響とされる乾燥した天候によりCCS^(注)が高いことから、415万トン（同3.5%減）とやや減少にとどまると見込まれている。

輸出量は、韓国、インドネシアおよび日本など主要輸出先での砂糖消費が堅調であることに加え、50年ぶりに輸出が再開された英国向けや、世界的な砂糖の供給懸念による豪州産砂糖に対する需要の高まりなどから、314万トン（同6.9%増）とかなりの程度増加が見込まれている。

(注) 可製糖率：サトウキビのシヨ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (1月予測)	2023/24 (2月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	354	343	328	353	353	7.6%
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,593	29,757	29,757	▲ 8.7%
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,298	4,149	▲ 3.5%
	輸入量	10	9	8	12	50.1%
	消費量	1,010	1,010	1,013	1,017	0.4%
	輸出量	3,377	3,453	2,942	3,144	6.9%
	期末在庫量	790	444	795	795	▲ 0.0%
期末在庫率	18.0	9.9	20.1	19.1	19.1	1.0ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：152万ha（前年度比6.2%減）

生産量：7200万トン（同23.3%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：832万トン（同28.9%減）

輸出量：554万トン（同32.7%減）

2023/24年度の砂糖生産量と輸出量は、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる乾燥天候を考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しており、152万ヘクタール（前年度比6.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少と上述の天候不順の影響を踏まえ、7200万トン（同23.3%減）と大幅な減産が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産やこれまでの収穫分のCCSが低いことから、832万トン（同28.9%減）と大幅な減少が見込まれる。なお、サトウキビ・砂糖委員会事務局は、製糖工場に納入されるサトウキビに梢頭部しょうとうや葉などの収穫残渣ざんざが多く、今後、砂糖生産量の低下が懸念されるとして、収穫残渣の混入防止策を検討していることを明らかにしている。輸出量は、砂糖の減産を背景に554万トン（同32.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

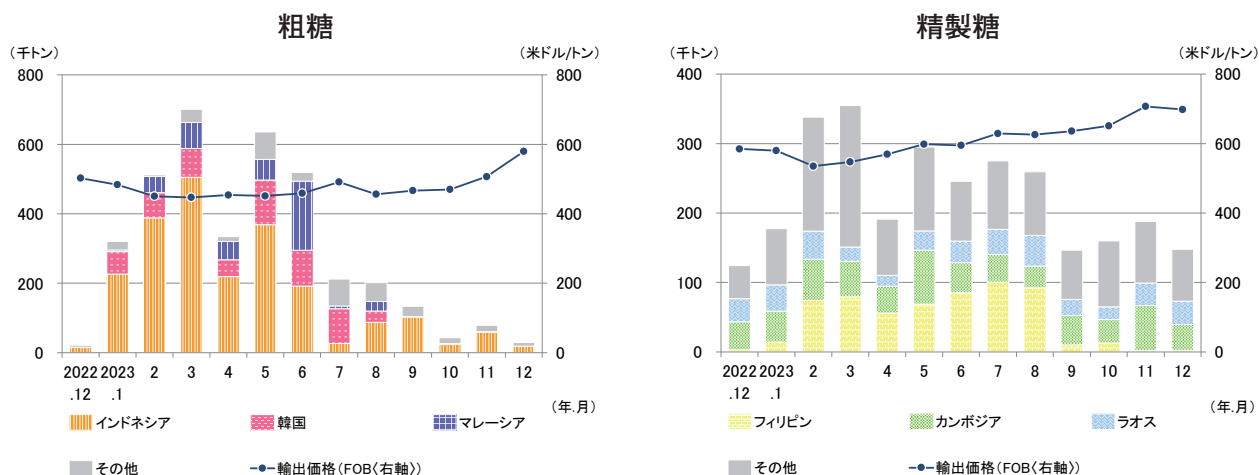
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (1月予測)	2023/24 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,518	1,518	▲ 6.2%	
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	75,000	72,000	▲ 23.3%	
砂糖	生産量	8,046	10,638	11,693	8,941	8,316	▲ 28.9%
	輸入量	111	150	284	283	150	▲ 47.2%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,314	3,314	▲ 1.0%
	輸出量	3,981	8,085	8,229	6,094	5,539	▲ 32.7%
	期末在庫量	5,116	4,395	4,795	4,611	4,409	▲ 8.0%
	期末在庫率	67.6	38.2	41.4	49.0	49.8	8.4ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。